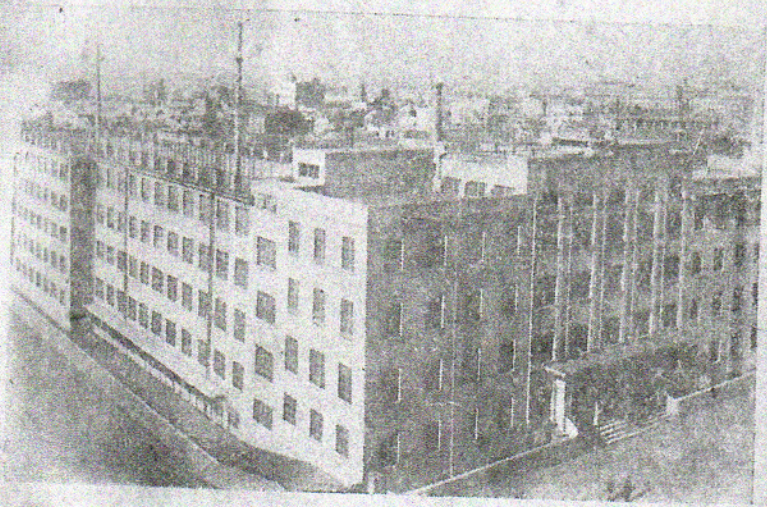
学期の始めに



東京都千代田区神田錦町二丁目二番地

電機学校

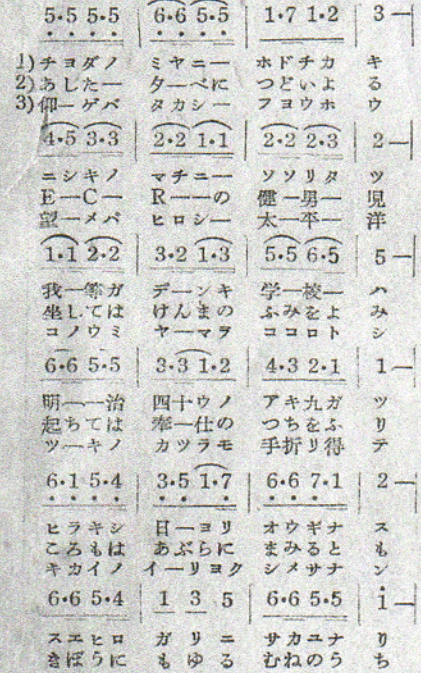
昭和27年4月

電機學校校歌

（大正10年10月制定）
（昭和6年9月改訂）

文学博士 塩谷 温 先生 撰
東京音楽学校教授 犬塚 淳 先生 作曲

ト調四分ノ二拍子（中等速度）



（1）千代田の宮に程ちかき
われ等が電機学校は
開きし日より屑なす
錦の街にそゝり立つ

（2）あした夕べにつどいよる
坐しては研磨の書を読み
ころもは油にまみるとも
明治四十の秋九月
末広がりに栄ゆなり

（3）仰げば高し芙蓉峰
この海山を心とし
機械の偉力示さなん
E C R の健男児
起ちては奉仕の襷を振り
希望にもゆる胸のうち
望めば広し太平洋
月の桂も手折り得て
電化のみよをあらわさん

学期の始めに

「始め良ければ，半ばは成就」という諺がある。学期の始めにこの刷物を配るのは何事も始めが大切であるから．今日から生徒になつた諸君に本校の仕組はどうなつているか，又生徒として守るべき事は何か等を知つてもらい，思い違いのないようにしたいためである。

1. 中途でやめないように

電機学園とは……電機学校は明治 40 年9月故広田精一，故扇本真吉両先生が昼間働く青年に，短期間に電気工学の全般を教え電気界の中堅技術者を養成する目的で創立された。以来本校が中心となつて発展し現在は本校の外東京電機大学，同短期大学部，電機学園高等学校が出来，学校法人電機学園が経営に当つている。

尚本校の電機の機の字は機械の機の字だし，電機学校以外に何もつかないのだから呉々も注意して欲しい。

本校の特色……電気工学を学ぶには色々な道がある。皆永い年月がかゝるが本校は僅か二三年で仕上げてしまうのであるから，教える人の苦心も一通りではないが，習う諸君もなまやさしいことではない。電気工学を修めようという初志はどんなに苦しくとも卒業迄は貫らぬかなければならない。中途でやめるようでは諸君の不利益ばかりではなく学校も不本意である。本校の卒業生は4万数千人いる。諸君の先輩はよくこの試練にたえ立派に栄冠をかち得て電気界に活躍している。諸君も先輩を手本として今日の決意を忘れず努力し卒業迄がんばつて電気界のためにつくしてほしい。

本校は校訓として「1. 廉直なれ，1. 懇切なれ，1. 熱心なれ，1. 質実なれ，1. 快活なれ，」を強調しているが，これは諸君が人生の大道をふみ外さないようにその心構えを示している。

2. 苦心の数々

短期間に電気工学を修めるために次のような事について学校は苦心している。

(1) **コピーとは何か**……教科書のことであるが一般の教科書とは趣がちがつている。教科書は普通骨組だけを書いてあるものであるが，本校の教科書（コピー）は更に丁寧に説明が加えてあるので，予習復習に充分利用出来るから特に参考書等は不用である。本校創立以来時代の進歩につれ改訂に改訂を重ねた苦心の結晶である。

(2) **授業時間**……勤労青年のための本校であるから授業時間も1日のつとめを終つて充分間に合うように午後5時30分から8時50分まで4時限行なつている。

(3) **学課の進度**……短期間に電気工学の全般を修得させるためには，学課の進度が自然早くなる。諸君は骨も折れるだろうが欠席，遅刻，早退などは出来るだけしないこと，一度休むとなかなか追いつけない。

(4) **製図は大事**……技術者で図面が画けなかつたり，図面が読めなかつたら，商人でソロバンが出来ないのと同じである。本校では製図の時間は最大限にとつている。

(5) **演習**……学課目の中に演習というのがある。これは担任の先生の外に助手と先生が直接手をとつて指導し実力をつけるもので学校としては大きな犠牲を払つているのである。諸君もそのつもりで勉強すること。

(6) **実演室，実験室**……電気工学は教科書だけでは「畳の上の水練」であつて真の技術者とはなり得ない。本校では長年に亘り実験実習設備の充実に努力して来たのでその設備を活用しているが，短期間修学では実験実習に多くの時間を費すことが困難なので実演室を設けている。実演室は電気の講義室で，移動式の電気機械を使い験電実験，無線実験等を，幻灯式計器によつて一度に多数の生徒が計器の指示を読めるようになつている。ちようど各自が実験をしているのと同じ効果をあげている。けだし本校独特の設備であつて他に類例がな

い。高等科になると実験がある。生徒は自らスイッチを入れたり計器を読んで記録をとり，計算をして報告書を出す。

実験の設備は水力発電実験所，15万ボルト特別高圧試験装置，デーゼル発電装置，電子顕微鏡，通信実験室，テレビジョン，ラジオの実習室，その他強弱電高周波，物理，化学の設備がある。

(7) **実地見学**……広い範囲の電気工学の実際を実験設備として設備するのは容易でない。教科書で習つた事を実際のもので見るのはよく理解でき又後々まで印象にのこる。日曜等を利用して水力，火力発電所，放送局，送信所，製造工場等の見学を行つている。

(8) **図書館**……日進月歩の学術図書や各種の新刊書雑誌等をあつめてある。休日を除き毎日午後8時まで開いているから勉強に研究に大いに利用されたい。

3. 学校の規則といろいろな注意

集団生活では自分勝手な行動は許されない。それには定まつた規則に従つて行動しなければならない。国に憲法法律があり，会社には社則があるように学校には校則がある。生徒は次のような事柄を校則に従つて守らなければならない。

(1) **生徒証**……生徒証には諸君の学籍番号氏名が記載されてあり，毎月の校費(授業料，実験費，設備拡充費，後援会費，校友会費)納入の領収印がおしてある。

(2) **身分証明書**……生徒証と一緒についている。これは通学定期乗車券購入や学生旅行割引の乗車券購入のとき，その他本校の生徒であることを証明する場合に使用するもので，生徒証と切りはなした場合は無効である。

(3) **登校**……生徒証を守衛に見せて通用門から校内に入り——**先ず掲示板に注意する**——伝達事項は掲示板を利用するから見落さないように。

生徒証がないと入門を許されない。生徒証を忘れたときは表玄関の事務会計課の窓口で登校許可証をもらい守衛に提出して入門する。校費の未納者も入門を許されないが，延納を許されたものだけが入門出来る（延納手続は 11 頁を参照)。靴，ゾーリ，以外の履物ハダシは校内では禁じてあるから，上履を用

意しなければならない。

(4) **着席**……期組の編成に従つてきめられた教室に入り，席は当分きめてないから適当な処で勉強されたい。

(5) **所持品**……書類，外とう，雨具等の持ち物は各自の座席に持込み，座席をはなれる時は隣席の者か知人に依頼し盗難防止につとめること。

所持品には科，期番号，氏名をかいておき，校内での紛失のときは教務室生徒係へ連絡しておく。拾物をしたときは生徒係にとどけること。

(6) **服装**……制服制帽は当分実施しないが生徒にふさわしい服装であること。学生服，学帽着用のときは規定のボタン，帽章をつけること。他校の帽章バッヂは使用してはならない。本校ではバッヂは制定してない。学生服のボタン，帽章は次のものが正しい。

帽章　　(実物大)



真鍮製・月桂樹(葉は12枚宛)の部分はうすいいぶし色，中の丸円(一重)の地は白．ECRの部分は黒に浮出しである。

胸釦



袖釦



(7) **授業時刻**……次の通りで開始終了は電鈴により信号する。

時限	開始	終了
1 時限	5 時 30 分	6 時 15 分
休憩 5 分		
2 時限	6 時 20 分	7 時 05 分
休憩 10 分		
3 時限	7 時 15 分	8 時 00 分
休憩 5 分		
4 時限	8 時 05 分	8 時 50 分

1時限開始5分前に予鈴を鳴らす。

遅刻者は静かに教室に入り授業をうけ，授業時間中は廊下，屋上等をさまよつてはならない。早退の場合は各時限が終つてから帰り，授業時間中の退出はいけない。

(8) **休日，休暇**……日曜祭日は休校である。夏季休暇は7月下旬から8月上旬迄の間で20日間，冬季休暇は12月下旬から1月上旬迄の間で14日間，及3月，9月の考査修了後新学期開始の日までは臨時休校する。日時は掲示によつてその都度発表する。

(9) **組長**……各組に組長1名，副組長2名を選び組と教務との連絡にあたり，授業の開始終了には起立，礼の号令をかける。

(10) **考査**……考査には定期考査と随時考査とがある。定期考査は6月，9月，12月，3月の4回行い，6月，12月は中間考査，9月，3月は学期末考査である。製図，演習，実験報告書，宿題等は随時考査である。定期考査は全課目に亘り其の期間中修めた中から問題を出し解答させる。

(11) **追考査**……定期考査を受けられなかつた者のために定期考査終了後に追考査を行う。随時考査には追考査は出来ない。

(12) **成績評価**……課目の評価は10点を満点とし，各課目4点以上で全課目の平均6点以上を合格とする。然しこの点数に満たない場合でも詮衡によつて合格出来ることもある。欠席の多い者，授業料未納者及随時考査の課目については詮衡をしない。追考査の評価は一割減点となる。

(13) **成績発表**……学期末の考査終了後中間考査及随時考査の分とも課目別の評点，席次，進級，再修学の表示を通知票に記入して生徒に渡す。中間考査については発表はしない。特に悪い成績の者だけに知らせて注意する。

(14) **賞罰**……品行が正しく学課の成績が優秀な者で，他の模範となるような善行のあつた者には学期末には賞状賞品を授けて表彰する。

定期考査，随時考査で不正の行いのあつたときはその課目又は全課目の得点を零とし進級を停止或は退学させることがある。

(15) **授業料納入**……授業料，設備拡充費，後援会費，校友会費，及実験費（本

こと。

(4) 生徒証，身分証明書を紛失したときは，「授業料」窓口に申出て再交附をうける。

(5) 復校再入学者の手続。何れも学期の初めに手続すること。復校者は復校届に4月又は 10 月分の校費を添えて事務室に提出すること。再入学者は新入学生と同様の手続がいる。

(6) 再修学は新学期（4月又は10月）の授業開始5日以内に再修学の手続（新学期の校費を納入する）をすること。

(7) コピーの売場は事務会計課の隣の窓口で扱つている。もし窓口が「締切」のときは一階 101 室の出版部で扱う。

(8) 学校学生生徒旅客運賃割引証(学割)は，夏季及冬季休暇又はやむを得ない事情の確証のあるときに限り，一人二枚以内発行する。多数の請求者があるきは制限することがある。

(9) 住居又は勤務先及保証人を変更したときは教務課に届けなければならない(書式 11 頁参照)。

(10) 職業がなく学業を継続し得ない生徒のため，就職の紹介を生徒係でやつているから自分でかいた履歴書を生徒係へ出しておくこと。

(11) 電気事業主任技術者検定試験，無線従事者国家試験については教務課に相談すること。

6. 校友会について

生徒であると同時に社会人である本校生徒の特殊性にかんがみ，相互の親睦を図るために自主的に組織されている機関である。学校はその運営には干渉はしないが指導相談相手となる。会の発展は生徒各自の自覚と協力如何にかゝつている。各組二名の代表者を出し，その内から責任者を選んで会の運営をしている。会費月額生徒一人 20 円は便宜上校費と共に事務会計課に納入している。事務会計課は集つた金額を会の責任者に渡す。行事の主なるものは次の通りである。

(1) 会員名簿（生徒名簿）の発行

(2) 名士の講演，映画，音楽の会

(3) 野球，卓球の試合

(4) 海の家，水泳大会，運動会，レコードコンサートの開催

(5) 新聞を発行して生徒の作品を載せる

(6) 其の他の催しものを随時開催

7. 其　の　他

(1) **社団法人電機工業会**……以前は電機学校の同窓会であつたのが発展し電機学園各校の卒業者で組織されている。全国10カ所の支部と50カ所の電機会がある。諸君が卒業すれば会員となる。雑誌「新電気」は同会が電気工学の新知識普及と電検第三種の受験の参考書として編集発行しているものである。新会員は6カ月間半額で購読出来る。諸君も購読されるとよい。

(2) **電機学園出版部**……諸君の使つているコピーや，電機学校校外教授部の文部省認定，電機学校通信教育，新制電気講義，電検受験参考書のほか電気工学の書籍を編集出版している。特に電検シリーズ21巻は電検受験用に編集されたものである。

(3) **食堂，売店**……夜学生は健康に充分注意しなければならない。健康は食生活に負うところが多い。地下室に食堂がある。食堂は学生用ホールとして開放されているから使うときは教務課に連絡すること。

学用品の購入，電気工学書の販売，洋服，靴の修理新調等を取扱つている売店がそれぞれ地下室にある。

電気工学書の売店は株式会社「オーム社書店」がやつている。「オーム社書店」は大正三年に学園出版部の一部が独立した株式会社「オーム社」の姉妹会社である。電気雑誌「OHM」，「ラジオと音響」は「オーム社」の編集出版によるものである。

(4) **運動場**……学園には錦町三丁目に約400坪のグランドがあり庭球，排球，

籠球等が出来る。又小石川後楽園裏には約 1700 坪の後楽園グランドがあり軟式の野球や運動会等が出来る。利用するときは生徒課に申込むこと。

(5) **東京電機大学，電機学園高等学校の学生，生徒との交誼**……大学には第一部（昼間），第二部（夜間），短期大学部（夜間）があり高校には昼間部，夜間部がある。いずれも多数の学生，生徒がいる。本校の生徒と同じく電気工学を専門に学ぶ学徒である。学校が違つても目的は同じである。まして同一校舎で学ぶのであるから兄弟同志である。協力し相互に仲よくしてほしい。

届　書　様　式

授業料納入延期願

電機学校長　池谷武雄殿

科　期　番

氏　名

○月分授業料期日までに納入出来ませんので月末まで延期お願いします。

住所　方

氏名　○　○　○　○㊞

上記授業料本人納入出来ない場合は私が御支払します。

保証人　住所

氏名　○　○　○　○㊞

退　学　届

電機学校長　池谷武雄殿

科　期　番

氏　名

1退学の事由（こまかく）

御許可下さるようお願いします。

住所　方

氏名　○　○　○　○㊞

保証人　住所

氏名　○　○　○　○㊞

転　居　届

電機学校長　池谷武雄殿

科　期　番

氏名　○　○　○　○㊞

1旧住所

1新住所（何某方をかく）

上記のように転居しましたからお届けします。

休　学　届

電機学校長　池谷武雄殿

科　期　番

氏　名

1休学の事由（こまかく）

1休学期間

御許可下さるようお願いします。

保証人　住所

氏名　○　○　○　○㊞

欠　席　届

電機学校長　池谷武雄殿

科　期　番

氏　名

1欠席の事由

1欠席の期間

上記の期間欠席します（しました）からお届けします。

保証人　住所

氏名　○　○　○　○㊞

勤務先変更届

電機学校長　池谷武雄殿

科　期　番

氏名　○　○　○　○㊞

1旧勤務先

1新勤務先　（所在地及名称を記入する）

上記のように変更しましたからお願いします。

保証人変更届

電機学校長　池谷武雄殿

科　期　番

氏名　○　○　○　○㊞

1変更をする事由

1新保証人との関係と職業

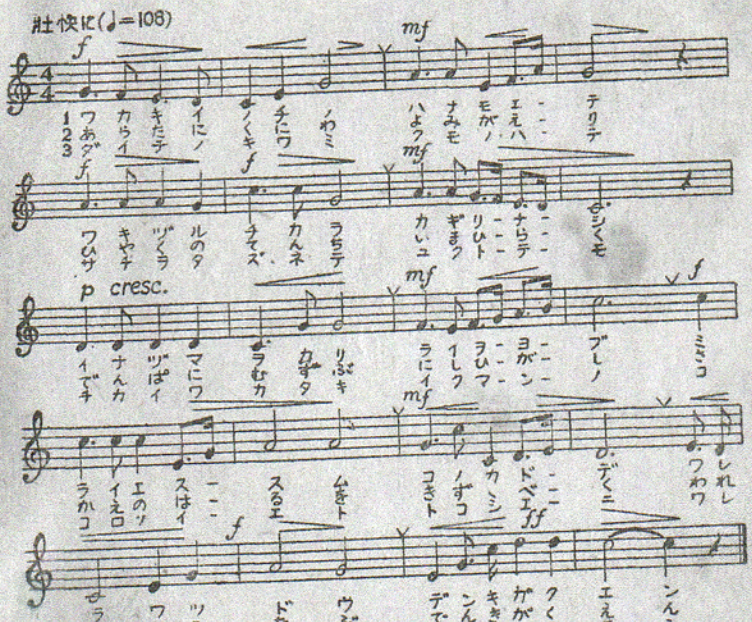
上記生徒の在校中の一切の事について保証を引受けしました。

新保証人　住所

氏名　○　○　○　○㊞

電機學園歌

作詞 三
作曲 堀内敬



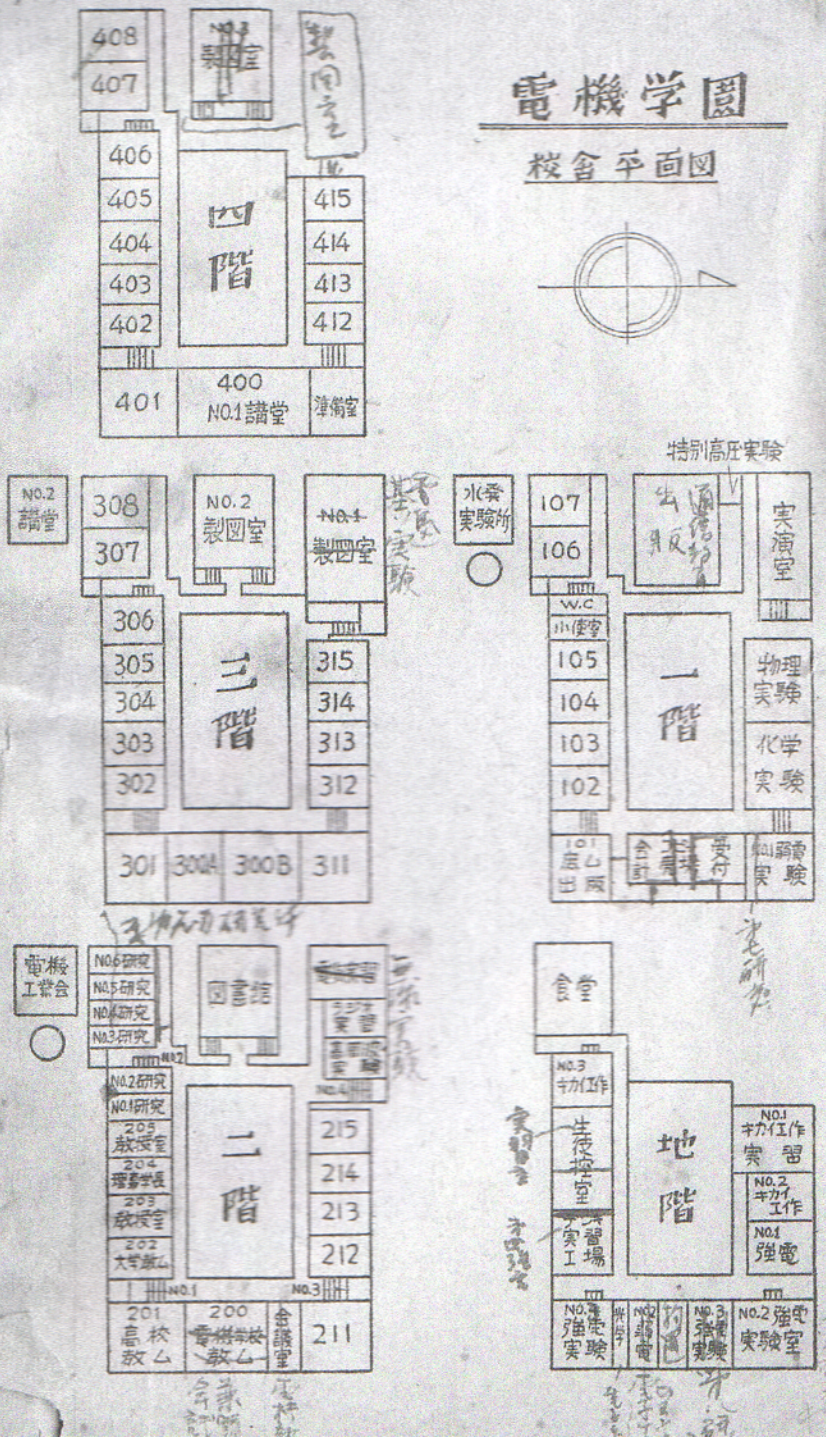
一、若き生命の　花崩えて
湧きづる力　限なし
電光を叱り　雷を呼ぶ
未来へ進む　この門出
われらは集う　電機学園

二、新に国は　よみがえり
飛躍の天地　いま開く
電波に結ぶ　西東
栄えの春を　築くべく
われらは学ぶ　電機学園

三、大地の極み　雲のはて
幸をたづねて　ゆくとても
誓は固き　幾万の
心の家と　永久に
われらは護る　電機学園

電機学園

校舎平面図



408
407
406
405
404
403
402
四階
415
414
413
412
401
400
NO.1講堂
準備室
NO.2
講堂
308
307
NO.2
製図室
~~NO.1~~
製図室
306
305
304
303
302
三階
315
314
313
312
301
300A
300B
311
水発
実験所
107
106
特別高圧実験
実演室
W.C
小便室
105
104
103
102
一階
物理
実験
化学
実験
101
底山
出版
会計
受付
NO.1弱電
実験
電機
工業会
NO.6研究
NO.5研究
NO.4研究
NO.3研究
図書館
NO.2研究
NO.1研究
205
教授室
204
増幕学長
203
教授室
202
大学教人
二階
215
214
213
212
NO.1
NO.3
201
高校
教人
200
~~電機学校~~
教人
会議室
211
食堂
NO.3
キカイ工作
生徒控室
地階
NO.1
キカイ工作
実習
NO.2
キカイ工作
NO.1
強電
NO.4
強電
実験
NO.2
弱電
NO.3
強電
実験
NO.2
強電
実験室